

大正十二年三月

情報彙纂 第四

朝鮮評論(KOREA REVIEW)
布哇米國新聞刊行物及通信

記事摘要

朝鮮情報委員會

目次

第一	朝鮮評論	
	一九二〇年十二月號	一頁
第二	布哇新聞	
	(一) 國民報	一九
	(二) 韓美報	二八
第三	米國新聞	
	(一) 「華盛頓ヘラルド」	三一
	(二) 「紐育タイムズ」	三二
第四	米國刊行物	
	(一) 在米朝鮮同情者協會ノ目的位置及役員	三四
	(二) 在米印度獨立同情者協會ノ目的位置及役員	三六
第五	英米通信	
	(一) 在米鮮人活動ノ形式	三八



(二) 在米鮮人ノ活動機關……………	三九
(三) 朝鮮問題下英國……………	四一

朝鮮評論布哇米國新聞刊行物及通信記事摘要

(情報彙纂 第四)

第一 朝鮮評論 (KOREA REVIEW)

第二卷第十册一九二〇年十二月號記事摘要

一 朝鮮人ノ祈禱

上帝ニ對シ正義公道ノ發揮ニ依リ自由獨立ノ境涯ニ達セムコトヲ祈求セルモノナリ。

二 開書

一九二〇年十一月二十二日付米國歸化朝鮮人「フイリツプ・ゼイソン」(本誌主筆)ノ名義ヲ以テ米國次期大統領「ウオーレン・デー・ハーヂンク」氏ニ宛テタルモノニシテ其ノ要領左ノ如シ。

(一) 朝鮮問題ハ國際問題ナリ

朝鮮問題ハ曾テ韓國ト諸外國トノ間ニ締結セシ條約ノ性質ニ依リ儼呼タル國際的性質ヲ帶フ。是等ノ諸條約ハ關係列國直接ノ發動、殊ニ韓國ノ發意ニ依リ確實ニ取消サレタルコトナク、單ニ日本カ擅ニ我等ノ

中間ニ入りテ其ノ效力ノ消滅ヲ宣言セシニ過キス。故ニ朝鮮又ハ關係列國ニ於テ是等條約上ノ義務ノ履行ヲ停止スヘキヤ否ハ直接列國ニ關係スル國際的問題ニ外ナラス。例セハ米韓修好通商條約ノ如キモ最惠國條款ヲ包含セルニ拘ラス、訂約ノ當事者タラサル日本カ其ノ無效ヲ宣言シテ、米國商人ニ差別待遇ヲ與フルニ至リタルモノニシテ、其ノ他列國トノ條約亦此ノ例ニ漏レス、是レ皆國際問題トシテ效力存否ノ決定ヲ待ツヘキモノナリトス。

(二) 是等諸條約ハ當初朝鮮ニ締結ヲ強ヒラレタルモノナレハ關係列國ノ道義上ノ義務殊ニ重シ。朝鮮ハ秀吉ノ征伐ニ懲リテ絶對鎖國ノ政策ヲ執リ、四百年間ノ平和ヲ樂ムヲ得タルカ故ニ開國ノ當初痛ク之ヲ忌避シ、獨佛其ノ他ノ兵力ヲ以テ抗爭スルヲ辭セサリシナリ。其ノ後米國ノ勸誘ト外交手段トニ因リ遂ニ修好通商條約ヲ締結シ、諸外國之ニ倣フニ至リタリト雖、其ノ本意ニ非サリシハ明ナリ、故ニ關係列國ハ少クトモ第三國ノ強壓排除ヲ援助スル條約上ノ義務ヲ否ムヲ得サルモノナリ。

(三) 日本以外ノ關係列國ハ一九〇五年(明治三十八年)迄其ノ義務ヲ全ウセリ

一九〇五年迄ハ關係列國カ朝鮮ノ利益保護ノ爲居中調停ヲ試ミシ事例多ク、米國ハ日清間ノ馬關條約ニ依リ支那ノ朝鮮ニ對スル宗主權ノ要求ヲ否認シ、露國ハ一八九八年(明治三十一年)日本ノ朝鮮強壓ヲ抑止シ、其ノ他ハ又暇々ヲ要セス。然ルニ一九〇五年(明治三十八年)以來其ノ種ノ援助ハ、日本ノ奸策陰謀ニ因リ、全ク其ノ跡ヲ絶チタリ。故ニ裏面ノ真相現實ニ曝露セラレ、日本ノ不信及外交的醜汚、世界ニ明白

トナラハ、關係列國ハ、一九〇五年以前ニ於ケルカ如ク、其ノ條約上ノ責任ヲ果スヲ以テ其ノ義務ト思惟スルニ至ルヘシト信ス。

(四) 日本ノ世界欺瞞

日本ハ一九〇五年(明治三十八年)其ノ朝鮮保護權ハ朝鮮人民及王室ノ承認セル所ナリト世界ニ告ケタルモ、其ノ虚偽ナルハ朝鮮人カ日本人ト心理、道念、氣質、種族、殊ニ體質スラモ異ニシ、數百年來日本ヲ傳統的讐敵ト做シ、近ク一八八四年(明治十七年)ニ於テ日本代表者ノ駐紮ヲ嫌忌憤慨シ、日本公使館ニ火ヲ放チテ公使以下ヲ驅逐シ、朝鮮王室ニ在リテモ日本ノ不信、王妃ノ虐殺、一八九八年(明治三十一年)ニ於ケル日本兵ノ王宮襲撃、玉體ノ危難、首相農相及藏相ノ慘殺、其ノ後ニ於ケル讓位強迫、李太王ノ幽閉、其ノ他新王ノ庸弱暗愚ナルヲ奇貨トシテ意ノ儘ニ諸種ノ命令ヲ發セシメタル等ノ恨ヲ忘ルルニ暇ナク、殊ニ前王カ日本ノ保護ニ對スル抗議ノ親翰ヲ「ヘーグ」平和會議及米國政府其ノ他ニ送付シタル等ノ事實アルニ徴シテ之ヲ知ルヘシ。

(五) 日本ノ壓迫

吾人ハ事實ノ細叙ヲ避ケ單ニ朝鮮ニ於ケル日本ノ暴虐ノ殆ト信スヘカラサル程極端ナルヲ記スルニ止ムヘシ。

一九一三年(大正二年)以降一九二〇年(大正九年)ニ至ル七年間ニ於テ日本ハ六十一萬六千八百三十九名

ノ朝鮮人ヲ有罪トシタリ。其ノ内政治犯ナラサル者ハ僅ニ百分ノ五アルニ過キス。而モ正式ノ審理ヲ經スシテ犯罪即決ニ附セラレタル者四十萬人ニ及ヒ、被檢舉者ニシテ無罪ト爲レルハ二千五百人中僅ニ一人アルノ割合ナリ。又右被處斷者中男女及少年少女ノ別ナク笞刑ニ處セラレタル者二十七萬八千八十七人ニシテ一人平均九十ノ笞ヲ加ヘラレ、笞刑ノ結果死ニ至リタル者數千人アリ。朝鮮獨立騷擾事件發生後滿一箇年間ニ於テ消極的示威運動鎮定ノ爲日本警察官及兵士ニ殺害セラレタル者七千六百四十五人、傷害セラレタル者四萬五千五百六十二人ニ及ヘリ。或時ノ如キ日本人ハ五十四人ノ朝鮮人ヲ其ノ不平ヲ聽取スルト稱シテ警察署ノ構内ニ誘拐招致シ置キ、門戸ヲ閉鎖シテ一故意ニ之ヲ銃殺シタリ、又他ノ場合ニハ朝鮮人ヲ教會堂ニ集合セシメ、戸ニ錠ヲ施シテ之ニ火ヲ放チ、脱出セムトスル者ハ無慘ニモ皆之ヲ銃殺シタルコトアリ。其ノ他類似ノ事例枚舉ニ遑アラス。又以テ殘虐、不正義、壓制等ノ暴狀ヲ推知スルニ足ルヘシ。經濟上ノ壓迫亦之ニ遜ラス。朝鮮ノ農業地ハ詐僞、奸計、壓迫又ハ強力ノ手段ニ依リ、今ヤ實際上總テ東洋拓殖會社ノ所有又ハ管理ニ歸シ、鐵道及電信電話線ハ其ノ擴張改良費ヲ國債ノ一部トシテ勝手ニ朝鮮ニ課シタルニ拘ラス、一文ノ賠償ヲモ朝鮮ニ與ヘスシテ之ヲ取上ケ、日本人漁業者及商業者ニハ優先ノ權利ヲ與ヘ、警察力ニ依リテ之ヲ保護シ、外國貿易ハ全部日本人ノ手ニ歸シ、石炭鑛、水道、製鹽等ノ事業ハ皆日本政府ノ管理ニ屬セシメラレタリ。

(六八) 日本ノ改善ト其ノ經費負擔者

日本ハ朝鮮ニ於ケル水道、交通施設ノ改善ヲ誇示シ之カ爲六千七百萬弗ヲ費消セリト云フモ、此ノ金額ハ果シテ日本カ之ヲ負擔シタリシヤ。是等改善施設ノ皆大陸征服ノ軍事的目的ニ出ツルモノナル事實ヲ暫ク措クトスルモ、吾人ハ尙日本カ今日朝鮮ニ負ハシメ居レル國債額五千四百萬弗、及從來平準以上ニ超過シテ租稅ヲ徵收シタルモノ六千四百萬弗、此ノ合計一億一千八百萬弗、即チ日本ノ所謂改善費ニ殆ト二倍スル此ノ金額ノ費途如何ヲ問ハサルヘカラス。朝鮮ハ日本ノ占領以前國債ナルモノナク、其ノ平準徵稅年額ハ四百萬弗ニ過キサリシナリ。

日本ハ又所謂「智的窒息」ノ政策ヲ行ヒ、日本人ノ學校ハ多キモ朝鮮人ノ學校ハ乏シク、朝鮮人ノ初等普通教育ノ課程ハ三年ニ限ラレ、此レ以上ノ教育ヲ許サル者ハ僅少ノ選拔者ニ過キス。新聞ハ發行ヲ禁セラレ、文化向上ノ手段一トシテ緊迫ヲ受ケサルモノナキナリ。

斯ノ如クニシテ朝鮮人ノ寧ロ自滅ヲ願フニ何ノ不思議カアラム。朝鮮ハ東洋ニ於ケル隨一ノ基督教國ナリ。而モ尙世界基督教國ノ十分ナル積極的援助ヲ受ケサルハ痛歎ニ堪ヘサル所ナリ。

(七) 日本ハ自稱保護者ニ過キス而モ其ノ信義ヲ蹂躪セリ

日本ノ軍事的朝鮮占領ノ根據ハ朝鮮ノ獨立及其ノ領土保全ヲ保證セル一九〇四年(明治三十七年)二月ノ日韓議定書ニ在リ。日本ハ當初保護者トシテ被保護者ノ財產及身柄ヲ占有シ其ノ管理ヲ受託スルノ形式ヲ執リタルニ過キサリシモ、其ノ後絶エテ駐屯軍隊ヲ撤退セサルノミナラス、受託ノ財產ヲ私シテ自家ノ用

ニ供シタリ。而シテ被保護者ノ身柄ノ成行如何ト問ハハ、世界ハ「日本ハ夫レヲ絞殺シツツアリ」ト答フ
ルノ外ナカラム。

(八) 結論

以上列舉セル所ハ蓋シ歴史上最大ノ國際的罪惡ナリ。米國ノ之ニ處スルノ途ニアリ。其ノ一ハ米國ノ義務ニ屬シ、他ハ其ノ權能ニ繫レリ。而シテ兩者共ニ日本ト國交斷絶ノ危險ヲ帶ヒサルモノナリトス。即チ
(一)米國ハ米韓條約ノ義務ニ依リ日本ノ朝鮮強壓ニ對シテ日本ニ抗議ヲ提起シ、極力居中調停シテ朝鮮カ
日本ノ爲ニ受ケタル損害ヲ賠償セシムルニ在リ(二)米國ハ一面其ノ當然ノ權利ニ依リ日本ニ對スル朝鮮共
和國ノ交戰權ヲ承認シ、事情若シ許セハ、之ニ次キテ朝鮮共和國自體ノ全承認ヲ爲スヘキナリ。交戰權承
認ノ戰爭原因タラサルハ十分ナル論據アリ。米國カ「チエツコ・スロヴァキア」ヲ承認セシカ如キ其ノ一例
ナリ。一九一八年九月米國カ獨塊ニ對スル該國ノ交戰權ヲ承認セシ時ノ如キ、同國國民議會ノ議員ハ皆外
國ニ流寓セルモノニテ、一人トシテ自國ニ在住シ居リシ者ナク、又國民議會ハ自國ニ寸土ヲモ領有セザリ
シナリ。然レトモ該民族ハ此ノ國民議會ヲ組織選舉シテ其ノ假政府タル任務ヲ執ラシメタリシナリ。米國
ハ此ノ事實ヲ認メテ「チエツコ・スロヴァキア」ノ交戰權ヲ承認シ、次テ同年十一月同國ノ全承認ヲ爲セシ
ニ非スヤ。朝鮮共和國假政府亦全民ノ百分ノ九十五ノ贊助後援ト舊王室ノ合式的承認トヲ得テ正當ニ成立
シ、其ノ憲法ハ米國憲法ト同様ノ方針ニ依リテ制定セラレタルモノニ外ナラス、況ヤ自治四千年ニ及ヘル

一ノ民族カ自治ノ繼續ヲ主張シ自治政府ノ樹立ヲ企圖スルハ其ノ當然ノ權利ナルニ於テヲヤ云々。

(備考)「フイリツプ・セーソン」ハ今ヲ距ル約三十七年前ヨリ米國ニ渡航歸化シ同國ニ於テ醫學博士ノ學位ヲ得タリト稱シ現ニ

在米國費府朝鮮情報局長兼「朝鮮評論」主筆タル元朝鮮人(本名徐載弼)ニシテ、其ノ言フ所ニ據レハ彼ハ渡米前日本ニ

留學シ、渡米後ハ「ザヨーザ・ワシントン」大學ニ入りテ醫學ヲ修メ後同校講師タリシコトアリ、又在米中一時歸鮮シテ

改進黨ノ一領袖ト爲リ又四年間舊政府ノ顧問ニ任セラレ前皇帝ノ信任ヲ得タルコトアリ。米國歸化後已ニ三十年ヲ經タ

リト云フ

三 英國ニ於ケル朝鮮同情者

十月二十六日英國下院議事堂内(委員室)ニ於テ一ノ會合催サレ、席上大不列顛朝鮮同情者協會(The

League of the Friends of Korea in Great Britain)ノ組織成立シタリ。會議ノ模様左ノ如シ。(情報彙纂

第二第七頁第九項參照)

下院議員「サー・ロバート・ニューマン」氏議長席ニ就キ開會ノ辭ヲ述ヘテ曰ク「吾人ハ今朝鮮カ自由ト

正義トヲ獲得セムトスル奮闘ニ對シ援助ヲ與フルノ方法ヲ考究スルノ目的ヲ以テ茲ニ集會ヲ催セリ。吾人

ハ頗ル困難ナル地位ニ在リ。何トナレバ此ノ全問題ハ日英關係ト深ク相錯綜シ、日本ハ戰時中聯合國ノ一

員タリシノミナラス、今現ニ英國ノ同盟國ナレバナリ。吾人ハ又之ト同時ニ吾人ノ世界ニ對スル義務ヲ盡

ササルヘカラス。我カ英國國民ハ日韓併合ノ承認者ナルカ故ニ吾人ハ一種特異ノ地位ニ立ツ者ナリ。吾人ハ

日本ニ對シ敵意ヲ挾ムモノニ非ス。吾人ノ求ムル所ハ吾人カ國民トシテ享有スル自由ト正義トヲ出來得ル限リ朝鮮人ヲシテ享受セシメムトスルニ外ナラス。英國國民ハ常ニ解放、自由及正義ノ爲ニ儼然トシテ立ツ者ナレハナリ云々」

次ニ「エフ・エー・マツケンジー」氏（日露戰役當時來鮮セシ英國「デーリー・メール」ノ從軍記者ニシテ「朝鮮ノ悲劇」ノ著者）ハ議長ノ指名ニ依リ該協會組織ノ理由トシテ先ツ一九〇四年（明治三十七年）以後今日ニ至ル朝鮮ノ事情ヲ述ヘタル後扱テ曰ク「大不列顛朝鮮同情者協會組織ノ理由ハ朝鮮ノ現狀カ我等基督教徒ノ同情、我等ノ博愛心及愛國の義務ノ觀念ニ要請スル所アルカ爲ナリ。吾人ノ動機ハ政治上ノ目的、又ハ排日的精神ニ出ツルモノニアラス。吾人ノ主張ニシテ貫徹セハ、啻ニ朝鮮ノミナラス、結局日本ヲモリスル所アルヘシ。他國殊ニ同盟國ノ内政ニ干涉スルハ特別異常ノ事情アルニアラサレハ、是認スルコトヲ得サル特別異常ノ事件ナリ。然レトモ朝鮮問題ハ斯ノ如キ異常特別ノ事情ヲ存スルモノナリト予ハ主張ス。

一九〇四年（明治三十七年）日本ノ朝鮮管制ノ當初白人ハ事實上皆日本ニ同情シ、潜ニ其ノ施政改善ヲ信シタリシニ、數月ナラスシテ事全ク吾人ノ豫期ニ反シ、日本ノ壓制ハ舊政ヨリモ遙ニ甚シキモノアルヲ示シタリキ」

氏ハ更ニ日本移民ノ無制限流入、阿片「モルヒネ」販賣者及醜業媒介者ノ入鮮、日本施政當初ノ暴虐、不正、朝鮮國民ヲ墮落セシメ之ヲ奴隸的民族タラシメムトスルノ計畫等ニ關シ述ヘタル後更ニ語ヲ進メテ曰

ク「日本ノ根本的失敗ハ其ノ同化政策ニ在リ。之カ爲朝鮮人ノ土地ハ日本移民ニ與ヘラレ、朝鮮人ノ延テ滿洲ニ驅逐セラレタル者百萬人ヲ超エ、日本語ハ法廷ノ用語ト爲リ、天然ノ資財ハ横奪セラレ、言論集會ハ自由ハ消滅シ、警察政治ハ至上權ヲ有シ、審理ナクシテ往々死ニ至ラシムルハ笞刑法行ハレタリ、自由ヲ撲滅セムトスル日本人ノ決心ハ一轉シテ基督教會排斥運動トナリ、之カ爲寺内總督暗殺陰謀事件ノ悲劇ヲ演出シ、無辜者拷問ノ慘事ヲ惹起ナリ。斯ノ如キ嚴酷ナル壓制政治ハ朝鮮人民ヲシテ從來類例ナキ程ニ一致結束セシメタリ。彼等ハ「ウイールソン」大統領カ國際聯盟ノ力ニ依リ小弱國民ノ爲公正ヲ保持スヘシトノ宣言ニ動かサレテ奮起シ、世界史上最モ著明ニシテ壯烈ナル抗議ノ一タル——平和的大抗議ヲ提起シタリ。然ルニ日本ハ暴虐ヲ以テ之ヲ壓倒シ、其ノ同盟國タル英國政府スラ遂ニ再三鎮壓手段及政治犯人ノ拷問ニ關シ日本ニ緊切ナル提言ヲ爲スノ已ムナキニ至レリ。朝鮮獨立運動者處遇ニ對スル世界ノ抗議ハ日本政府ヲシテ總督ノ更迭ヲ行ハシメタリ。予（マツケンジ）ハ齋藤新總督及水野新政務總監ノ改革進捗ノ誠意ヲ疑ハスト雖此ノ日本ノ大機關ハ二氏ニ取リテハ餘リニ強キニ過キ、新施政ノ下ニ於テスラ拷問、虐待、暴虐尙殘存セリ」云々ト説キテ多クノ實例ヲ舉ケ、最後ニ日本人タル朝鮮改革者ノ權能ヲ強メ、且日本帝國政府ヲシテ峻烈ナル朝鮮政治ヲ緩和改善セシムル爲、會員ノ一致協力セムコトヲ熱望セリ。

次ニ「ダブリユー・レウエリン・ウイリヤムス」氏起チテ簡單ニ朝鮮同情者協會ハ教會、講演、新聞、議會等有ラユル手段ニ依リ朝鮮現狀ノ詳細ヲ英國國民ニ提示シ極力朝鮮人ノ不幸ノ救治ヲ助成セムトスルモノナ

ル旨ヲ述ヘタリ。

浸禮派ノ老功ナル説教者タル「ジョン・クリッフォード」博士（神學博士）ハ左ノ如キ第一決議案ヲ提出セリ。

英國朝鮮同情者協會ハ左ノ目的ヲ以テ之ヲ設立ス

(a) 朝鮮ニ於ケル——社會的、政治的、經濟的、宗教的ノ——現在ノ状態ニ關スル正確詳細ナル情報ヲ宣傳スルコト

(b) 朝鮮人民ノ爲正義、自由ノ享有ヲ助成スルコト

(c) 朝鮮基督教徒ノ信教上ノ自由ヲ保護スルコト

(d) 朝鮮ニ於ケル寡婦、孤兒及政治的及宗教的迫害ノ犠牲者ニ對シ援助ヲ與フルコト

博士ハ説明シテ曰ク「本會ノ設立ハ朝鮮ノ政治ニ干涉スルモノナリト憂慮スル者アリシモ我カ英國國民カ從來常ニ他國ノ自由ヲ助成シタル傳統的精神ニ顧ミ更ニ本席上聽取シタル朝鮮ノ慘狀ヲ思フトキハ英國人カ朝鮮民族ノ爲一臂ノ力ヲ盡サムトスルモ怪ムヘキニ非ス。朝鮮人ハ其ノ權利ノ爲ニ戰ヒツツアリ。彼等ハ人トシテ又市民トシテノ權利ヲ騙取サレツツアリ。日本ハ朝鮮人ヲ併呑シ且之ヲ奴隸トナシツツアリ。我等ハ全力ヲ盡シテ其ノ奴隸状態ノ解放ニ努メサルヘカラス。我カ英國ニ於テハ朝鮮問題ニ關シ通信ヲ抑止スルノ傾向アリト聞ク。我等ハ之カ排除ノ爲ニ戰ハサルヘカラス。予ハ思フ我等ノ本務ハ政府ニ交渉シ

テ朝鮮人民ノ状態ニ關スル事實ノ開示ヲ求メ且政府ニ勸説シテ日本ノ行動ハ世界ノ良心ニ悖戾スルモノナルコト竝其ノ行動ヲ改善スルノ必要アルコトヲ日本政府ニ覺醒セシムルノ措置ヲ執ラシムルニ在リ云云』

下院議員陸軍中佐「テイー・エーチ・パリー」氏ハ決議案ニ賛成シテ曰ク『此ノ舉ハ朝鮮ノ政治ニ干渉スルモノナルヤ疑ナシ。然レトモ吾人ノ爲サムトスル所ハ一ノ機關ヲ創設シテ此ノ不幸ナル邦土ニ正義ヲ齎サムトスルニ在リ。今ヤ輿論ノ勢力ノ強盛ナル世界史上未タ曾テ有ラサル所ナリ。吾人カ本協會ヲ設立スル所以ノモノハ實ニ此ノ輿論ヲ刺戟シテ朝鮮ニ自由ト正義トヲ來タサムトスルノ趣旨ニ外ナラス云々』

「ファイリツプ・スノーデン」夫人ハ朝鮮人ノ主張ニ同情シ且現時英國ニ於ケル難關ノ一ハ戰後人心漸ク冷淡トナリ不正惡虐ノ報道ニモ容易ニ衝動ヲ感セサルニ在リ。然レトモ此ノ心理状態ハ再ヒ舊ニ復スルニ至ルヘシト曰ヘリ。

次ニ下院議員「エー・ライル・サミュエル」氏ハ起チテ曰ク『日本ハ我等ノ同盟國ナリ。然レトモ予ハ英國カ彼カ如キ陋劣國ト同盟セサルヲ得サリシハ不運ナリト思惟ス。前ニ提言セラレタル政府ニ所要事實ノ提供ヲ求ムルノ議ハ妙案ナリト雖、之レ以上ノ援助ヲ求ムルハ政治ノ實際上不可能ナルヘシ。予ハ思フ吾人ノ努ムヘキハ宣傳ニ在リト。朝鮮ノ事態英國全般ニ周知セラルレハ、人民遂ニ憤慨シテ日英貿易ニ影響ヲ及ホスヘシ。是レ日本ヲ動ス唯一ノ方法ナリ。蓋シ日本ノ良心ヲ覺醒セシムルニハ、日貨排斥若クハ之ト類似ノ手段ニ依ルノ外ナケレハナリ云々』

斯クテ本決議案ハ滿場一致ヲ以テ通過シタリ。

萬國福音傳聯盟書記「エーチ・エム・グッチ」氏ハ曰ク「我等ハ楯ノ兩面ヲ見サルヘカラス。我等ハ本會ノ將來ニ希望ヲ囑スルト同時ニ前途ニ横ハレル危險ヲ念頭ニ置カサルヘカラス。我等ノ日本ニ關スル言議ニシテ世ニ公ニセラルレハ、日本ニ一ノ運動起リ、朝鮮ニ於ケル宗教上ノ自由ヲ杜絶シ、軍國的制度ヲ再現スルコトアルヘケレハナリ云々」

「ライル・サミュエル」氏ハ之ニ應シテ曰ク「日本ニシテ「グッチ」氏ノ言フカ如キ行動ニ出テオハ、是レ陋劣ノ極ナリ。自家ニ有害ナルヲ感知スルニ非サレハ其ノ惡事ヲ中止セサルカ如キ國民程陋劣ナルモノハ之レアラサレハナリ云々」

「チエムバーウエル」聖路加教會準監督「ゼー・エー・ダグラス」氏ハ左ノ役員選任ノ動議ヲ提出シ、且曰ク「吾人ノ求ムル所ハ日本ノ良心ヲ感動セシムルニ在リ。吾人ハ宣傳ニ依リテ輿論ヲ喚起シ、英國公衆ノ良心ヲ衝動シ得ヘシト」。

會 長 「サー・ロバート・ニューマン」(下院議員)

名譽書記 「ダブリュー・レウエリン・ウイリヤムス」

名譽會計 「ダブリュー・ヒスロップ」(倫敦英佛協會名譽書記)

委 員 陸軍中佐「ジョン・ウオード」(下院議員) 陸軍中佐「テイー・エーチ・バリー」(下院議員)

「ゼー・エフ・グリーン」 「スコット・リゼット」博士 「ゼー・エー・ダダラス」

「エフ・エー・マッケンジー」 牧師「バーナード・スネル」

「ダブリュー・レウエリン・ウイリヤムス」氏ハ曰ク『朝鮮ニ關スル情報ハ國際聯盟ニモ之ヲ通報スルノ手段ヲ講シツツアリ。之ニ關シ吾人ノ困難トスル所ハ、日本カ我カ同盟國タル關係上、諸新聞カ吾人ノ反對側ニ立チ、隨テ吾人カ新聞ヲ繰縦シ得サルニ在リ。吾人若シ朝鮮ヲシテ國際聯盟ニ參加スルノ權利ヲ享受セシムルコトヲ得ハ、此ノ事亦必スシモ成リ難キニ非ス云々』

「ジョン・クリッフォード」博士ハ曰ク『朝鮮ハ目下ノ處此ノ種ノ權利ヲ有セス。吾人ノ爲ササルヘカラサルハ朝鮮ノ爲其ノ種類ニ屬スル何等カノ權利ヲ確立スルニ在リ』

黃氏(朝鮮人)曰ク『國際聯盟協會(The League of Nations Union)ハ一週間前「ミラン」ニ於テ會議ヲ開ケリ。予ハ代表者ノ一人ナルモ、自身出席スル能ハサリシニ由リ、一友人ヲ派遣シタリ。彼ハ朝鮮國際聯盟協會(The Korean League of Nations Union)ノ立案セル決議案ヲ提出シ、議長之ヲ朗讀セシニ、日本代表者ハ之ヲ遮キリテ「朝鮮ニシテ發議スヘキコトアラハ、開ハ必ス予ヲ通シテ提言セラレサルヘカラス」ト言ヒタリ。此ノ件ニ付テハ此レ以上聞ク所ナシト。』

「エフ・エー・マッケンジー」氏ハ黃氏ヲ會衆ニ紹介シテ曰ク『氏ハ朝鮮民族ノ公認歐洲駐在代表者ニシテ、戰時中米軍參加ノ一軍人トシテ歐洲ニ來リ、休戰後本國民ノ急ヲ聞キ、米國當局ニ除隊ノ許可ヲ求め、爾

來概ネ巴里ニ在リテ朝鮮ノ爲盡瘁セリ。氏ハ歐洲外交家ニ朝鮮ノ主張ヲ宣明シ、毎月朝鮮ニ關スル佛語雜誌ヲ發行シツツアリ。要スルニ氏ハ代表官トシテ未タ列國ノ承認ヲ得サレトモ、實質上朝鮮人民ノ公使、代表者、代辯者タルヲ失ハサル者ナリ云々』

黃氏ハ拍手ヲ以テ迎ヘラレ更ニ演說シテ曰ク『予ハ茲ニ我カ國民感謝ノ意ヲ諸士ニ致ス。諸士カ自由民タル有ラユル有利ヲ享有スルニ反シ、我等ハ辛苦シ且奴隸ノ境遇ニ在リ。我等ハ何等ノ自由ヲモ有セス、信教上ノ自由モナク、良心ノ自由モナク、基本的人權スラナキナリ。我等カ諸士ノ許ニ來レルハ此ノ國ノ民主政治ノ發祥地タルヲ知ルカ爲ナリ。英國ハ終始全世界被壓民族ノ光明トシテ立テリ。諸士カ世界大戰ノ爲最大ノ犠牲ヲ拂ヘルハ何ノ爲ナルカ。文化救濟ノ爲ニ非スヤ。朝鮮ト英國トハ一八八三年（明治十六年）英韓條約締結以來常ニ深厚ナル友好關係ヲ持續セリ。予ハ茲ニ諸士カ友國ノ獨立ヲ助成セラレムコトヲ求メサルヲ得ス。予ハ朝鮮カ既往十五年間ニ於ケルカ如キ状態ニ何時迄モ甘ンスヘシトハ信セス。貴國カ今日ノ如キ自由ノ幸運ヲ開キシニモ數百年ノ歲月ヲ要セシニ非スヤ。我等ハ曾テ一小隱遯王國トシテ近代文明ト全ク絶縁セシカ爲、現代強國ト拮抗スルノ力ナク、且公正ナル機會ヲモ有セサリシト雖、我等ハ既ニ我等ノ教訓ヲ實感シタルカ故ニ、諸士ノ援助ヲ得ハ其ノ地位ヲ改善スルニ至ルヤ必セリ。朝鮮現時ノ慘狀ハ「マッケンジー」氏ノ語ル所ノ如シ。今ヤ朝鮮ハ軍國主義ト壓制政治トノ爲ニ壓壞セラレタリト雖、其ノ歴史ハ遠ク四千二百年ノ古ニ遡ルヘク、諸外國スラ一時文化ト教育トヲ朝鮮ニ求メタルコトアリ。朝

鮮ハ貧弱ナル小國ナリト雖尙其ノ國ヲ愛スルニ千萬ノ民人ヲ有ス。予ハ茲ニ諸士ニ對シ貴國ノ誠意アル同情ヲ感謝ス云々』

本會合ニ缺席陳謝ノ書面ヲ送リタル者左ノ如シ。

「アール・ホートン」博士、「スコット・リゼット」博士、「ジョウエット」博士、奴隸解放先住民族保護協會書記「トラヴァース・バックストン」氏、國際仲裁協會會員「エフ・マヂソン」氏、日曜學校聯合會員「クレー・ボナー」牧師、福音自由教會全國大會員「テイ・ナインチンゲール」牧師、蘇格蘭總會所屬聯合自由教會會員「サー・ロバート・シムツン」氏、「アール・シー・ギリー」牧師等

最後ニ本誌記者ハ個人的ニ得タル情報トシテ右報告ニ附記シ、叙上參會者ノ外英國著名ノ主導的人物ニシテ此ノ朝鮮同情ノ運動ニ對シ深厚ナル同情ヲ表シ、將來其ノ進捗ニ力ヲ盡スヘキコトヲ約シタルモ、彼等カ官職ヲ有スル關係上、其ノ姓名ヲ本協會名簿ニ列スルコトヲ便トセサル者數十人アリト曰ヘリ。

(備考) 本記事會合者中「ジョン・クリツフォード」博士及「スノーデン」夫人ハ他國ニ於ケル壓迫ニ對シ常ニ熱烈ナル同情ヲ寄スル者トシテ著名ナル者ナリ。

四 日本ノ基督教征伐

日本ハ九州ニ於テ又朝鮮人ノ暗殺陰謀ヲ發見シタリト號シ、爆彈ヲ所持シ居タリトテ朝鮮人ヲ捕縛シ、尙某基督教學校ニ於ケル長老派總會ノ開會ニ際シ一ノ秘密結社ヲ發見シタリト稱シテ之ニ解散ヲ命ジ、其

ノ會員ヲ逮捕シタリトノ報道ヲ掲ケ、更ニ之ヲ評シテ、基督教徒ハ、多分米國宣教師モ共ニ、怖ロシキ日本ノ監獄及野蠻ナル拷問ノ苦患ヲ嘗メ居ルナルヘシ。日本ノ打撃ヲ加フルハ常ニ基督教ナリ。山東割讓ノ如キ亦此ノ脚色ノ一齣ニ過キス。若シ朝鮮ノ解放ニシテ成就セラルレハ。世界ニ對スル日本ノ脅威ハ大ニ減少スヘシ、而シテ是亦黃禍ノ害毒ヲ減スル所以ナルヘシ。斯クテ此ノ方策ハ、一舉シテ一國民ノ自治ヲ回復シ、支那ニ自主ノ權ヲ與ヘ、久シク苦惱セル基督教ノ信仰ニ對スル日本ノ襲撃ヲ挫折セシムヘシ云々ト曰ヘリ。

五 次期大統領ニ對スル米民ノ期待

一九二〇年十一月九日付「ハーデンダ」氏宛在華府米國農會建白書ヲ掲ク。同書ハ「ハ」氏就任後直ニ(一)對獨逸平和克復(二)對獨逸條約締結(三)國際會議ヲ招集シテ公正ナル國際法典ヲ編成シ、列國間又ハ一國ト其ノ隸屬又ハ被壓民族トノ間ノ爭議ニシテ關係當事者間直接ノ會商ニ依リ平和的ニ解決スル見込ナク延テ累ヲ國際的平和若ハ列國間ノ善意ノ諒解ニ及ホスノ虞アルモノヲ調停スヘキ國際仲裁廳並國際法及國際正義ノ最高法院ヲ設置スルコト(四)永久的世界平和ヲ保障シ、漸次軍備撤廢ヲ實現シ且從屬悲慘ノ國民又ハ被壓民族ガ公正ナル處理ト適當ナル被害報償トヲ訴求シ得ヘキ國際裁判所設置ノ途ヲ開クノ力アル世界的機關即チ世界平和保全協會トモ稱スヘキモノヲ設置セムコト等ヲ懇懇セリ。

六 「ハースマン」事件

「ジャバン・アドヴァータイザー」紙ヨリ米國議員團京城訪問及基督教青年會ニ於ケル「ハースマン」事件ニ關スル記事ヲ轉載ス。

七 朝鮮人ノ爲ノ「クリスマス」義捐金ノ勸奨

在上海朝鮮人學校一校及在「ホノルル」朝鮮人基督教學院二校建築費ノ義捐ヲ勸奨セルモノナリ。

八 費府朝鮮同情者協會

本會ハ十二月二日月次例會ヲ開キ、東洋ヨリ恰モ歸米セル世界日曜學校大會代表者牧師「モーリス・サムソン」博士(費府ノ人)一場ノ朝鮮視察談ヲ試ミタリ。氏ノ言フ所ニ據リテ判斷スルニ、氏カ短時日ノ在朝中ニモ、日本官吏ノ米國人ニ對スル傲慢ナル態度及朝鮮人ニ對スル殘酷不正ノ處遇ニ因リ、氏カ米人基督教者タル熱血ハ強度ノ昂奮ヲ感セサルヲ得サリシモノノ如シ。當日博士ハ本會執行委員ニ、「トーマス・エール・ホッヂユ」氏ハ當務書記ニ選ハレタリ云々。

九 自由ナル朝鮮

「アール・ケイ・ホワン」(朝鮮人黃氏)ノ主宰セル在巴里朝鮮情報局ハ、「自由ナル朝鮮」(La Corée Libre)ト題スル佛語月刊雜誌ヲ發行シ來レルカ、同誌ハ佛蘭西及白耳義ニ廣ク頒布セラレ、其ノ記事ハ佛國新聞其ノ他ノ定期刊行物ニ轉載セラルルモノ尠カラス。

黃氏ハ曩ニ米國遠征軍(對獨塊)ニ參加シ休戰後名譽アル除隊ノ特典ヲ受ケタリ。氏ハ英佛語ニ通スル

學者ニシテ熱烈ナル愛國者ナリ。(本冊子第二十頁第二行參照)

十 朝鮮ヨリノ書翰(書中ノ地名人名一切故ラニ削除シアリ)

先ツ『エキスブレス』便ニ依ル發信ノ機會到來セシニ付一書ヲ呈ス云々ト冒頭シ、最近ノ實話トシテ、何某ノ叔母某ハ婦人會ニ於テ說教中中止ヲ命セラレ、之ヲ拒絕セシ爲幾回トナク打擲セラレ、今尙監獄ニ拘禁サレ居レトモ其ノ理由ヲ知ルニ由ナシ。何人ニテモ犯罪ノ嫌疑ヲ受ケ又ハ有罪ト認メラルルトキハ、警察ハ平氣ニ其ノ人ノ身柄ヲ自由ニス。一基督教徒ノ如キ意外ニモ突然捕縛セラレ、其ノ理由ヲ詰問セシモ、何等ノ説明ヲモ與ヘラレス。又一學生ハ大韓青年會員ナリトノ嫌疑ヲ受ケテ捕縛セラレ、訊問ノ際之ヲ否認セシニ、果テハ該會員ノ姓名ヲ列舉セヨト迫マラレ、警官ハ再三彼カ殆ト窒息スルマテ彼ノ頭ヲ水中ニ押入レテ拷問シタリ。又某博士ノ青年助手ハ獨立新聞ヲ讀ミタリトテ他ノ數名ノ者ト共ニ逮捕セラレタリ。警官等ハ某博士ニ例ハ如ク毆打ヲ加ヘ幾度モ其ノ鼻孔ニ水ヲ注入シテ遂ニ絶息セシメ、翌早朝醫師ヲ招キテ漸ク蘇生セシメタリ。笞刑ハ廢セラレタルモ豫審ニテハ尙打撲ノ手段ノ用井ラルルコトアリ。予ハ四五日前ニ毆打セラレタル中央教會ノ一會員ヲ見タリ。彼ハ例ノ如ク鐵ノ手械ヲ箝メラレ、腕ノ肉ハ裂ケ破レタリ。日本ハ朝鮮人ヲ其ノ所有物ノ如ク考ヘ居レリ。日本ノ迫害ハ特ニ基督教徒ノ信仰ニ向フモノナリトハ一般ノ感想ナリ。日本人カ躍氣ニナリツツアルハ眞實ニテ、鮮人射撃ノ行ハルルコトスラアリ。爆發前警官ニ發見セラレタル地雷ノ中ニハ官憲自身ノ埋設シタルモノモアリト信セラル。米國議員團ヲ歡

迎セムトセシ牧師長老等ハ警察署ニ檢束セラレ、一間ニ二十二人許モ詰メ込マレ、牧師等ハ爲ニ大病ニ罹レリ、云々ト記セリ。

十一 學生欄

露國勞農政府ノ承認ヲ「殺戮ト握手」スルヨリモ惡シト唱フル政治家ニシテ、朝鮮ニ於テ「ボルシエヴイキ」ニモ勝ル屠殺、殘虐、野蠻ノ記録ヲ有スル日本ト握手セムトスルモノアルハ、奇怪ナル差別待遇ニ非スヤ。

世界ノ基督教民ハ、是迄、事、日本ノ内政ニ關ストノ理由ヲ以テ、朝鮮ニ於ケル基督教徒虐待ニ對スル抗議ヲ差控ヘタルカ、今ヤ日本カ揮春地方即チ國外ニ於テ朝鮮人基督教徒ニ對シ組織的迫害ヲ加ヘ居レルニモ拘ラス、依然トシテ無關心ナル態度ヲ以テ之ヲ看過セリ、世界ハ全ク人道及基督教の同情ノ精神ヲ失ヘルモノナルカ云々。

第二 布哇新聞

(一) 國民報記事摘要

本紙ハ布哇在留排日鮮人中李承晩ノ系統ニ屬スル一派ノ每週數回不定期ニ發行スル諺文新聞ナリ

一 歐洲ニ於ケル我カ外交活動 (一九二〇年十二月二十九日號及一九二二年一月一日號)

巴里ニ駐在スル我カ代表者團書記黃起瓚ノ公文ト朝鮮ノ爲極力盡力セル英國ノ友人「マツケンジ」氏(朝鮮ノ悲劇ノ著者)ノ報告トニ據レハ、這間黃氏ハ英京倫敦ニ渡リ「マ」氏ト協同シ、十月二十六日午後四時倫敦英國社會黨下院議員室内ニ於テ韓國親友會組織セラレタリ。其ノ狀況左ノ如シ。

諸君ノ知ラルル如ク我々カ今日此處ニ會合ヲ催シタルハ、自由ト正義ノ爲、韓國ヲ援助セムトスルニ在リ。此ノ事ヲ爲スニ當リ我々ノ地位ノ困難ナルハ、日本ヲ對手トスルニ在リ。且日本ハ我同盟國ナルカ爲ナリ。乍併我等ハ世界ニ對スル我等ノ義務ヲ果ササルヘカラス。我等ハ日本ノ韓國併合ヲ承認セリ。我等ハ日本ニ對シ敵意ヲ表スル者ニアラス。我等ハ自己ノ受クル自由ト正義トヲ韓國民モ共ニ享受スヘキモノト信ス

ト。
主席「ニウメン」氏(英國下院議員)ハ「マツケンジ」氏ヲ會員ニ紹介シ、同氏ニ會ノ趣旨ヲ説明セシメタリ。「マ」氏曰ク

我々カ英國ニ於テ韓國親友會ヲ組織セムトスルハ他ニアラス。是レ即チ我カ基督教的同情ト我人道及愛國の責任トノ使命ナリ。如此會ヲ下院議員室ニ於テ組織スルハ極メテ緊要ナル事ナリ。乍併此ノ親友會ハ別ニ政治的意味ヲ含ムモノニアラス。又排日思想ヲ宣傳セムトスルモノニアラス。只韓國ニ於ケル悲惨ナル事情ヲ天下ニ紹介スルニアリテ、其ノ結果ハ韓國ノミヲ利スルニアラスシテ、日本ヲモ大ニ警醒セシム

ルニ在リ。千九百四年日本ニ於テ韓國ノ保護權ヲ獲得セシ際、我等ノ日本ニ同意セルハ日本カ韓國ノ腐敗セル政府ヲ改良シ、遍ク國民ニ幸福ヲ與フルコトヲ信セシヲ以テナリ。然ルニ數月ナラスシテ我等ノ信用ハ裏切ラレタリ。這ハ昔時ノ野蠻時代ニ行ハレタル無道ナル帝國主義ニ基ケルカ爲ナリ。日本施政ノ根本的大失策ハ韓國内ニ施サムトスル同化政策ナリ。且韓國内地ニ日本ノ移民政策ヲ施ス爲數百萬ノ韓國良民ヲ滿洲地方ニ放逐シ、法廷ニ於テ日本語ヲ使用シ、言論集合ニ於ケル國民ノ自由ヲ壓迫シ、笞刑ヲ施シ、無辜ノ良民ノ裁判ノ宣告ナクシテ獄死スルノ惡刑ヲ施シ、日本ハ韓國ノ自由ヲ絶對的ニ撲滅セムトシテ基督敎會ヲ迫害シ始メタリ。彼ハ隱謀事件ニ依リ無罪ノ基督教徒ヲ捕ヘテ瀕死ノ惡刑ヲ施セリ。斯ル無道不義ナル日本ノ管轄下ニ於テモ韓國人民ハ無前ノ覺醒ト團結ヲ爲セリ。然ルニ時恰モ米國大統領「ウイilson」氏主唱ノ下ニ世界ノ聯盟會組織セラレ、小弱國ノ爲人道ト正義ヲ呼號セルニ應シ、韓國民ハ一齊ニ日本ノ政府ニ對シ、反抗ヲ表示シテ起テリ。這ハ有史以來嘗テ無キ平和的拒意ナリキ。如此文明的行動ニ對シ日本ハ益野蠻的手段ノ鎮壓ヲ用井タルヲ以テ、我カ英國政府ハ日本ノ我カ同盟國タルニモ拘ラス、韓國愛國者ヲ無數ニ捕縛シ惡刑ヲ施セルニ對シ日本政府ニ再三抗議ヲ提出セリ。千九百十九年韓國ニ於テ起レル獨立運動ヲ鎮壓セル日本ノ手段ニ對シ世界的抗議ノ起レル結果、日本政府ハ長谷川總督ヲ交迭シテ齋藤總督ニ替ヘ諸般ノ施政ヲ改良スヘシト稱セルモ空言ニシテ却テ監獄ニ於テ惡刑ヲ施サルコト甚シ。故ニ我等ハ日本政事家ヲシテ韓國施政ニ關シ暴逆ナル手段ヲ眞ニ改正セシメムコトニ努力セムトス。

「マツケンジ」氏ノ演説ヲ畢リタル後、過去數箇月間我等ノ宣傳事業ヲ援助セル、倫敦ニ於テ有力ナル新聞記者「レウエリン・ウイリアムス」氏ハ宣傳方法ニ付簡單ニ說話セリ。(情報彙集第二第七頁第九項參照)

我等ハ此ノ會ヲ組織シ之ヲ進捗セシムルハ宣傳ニ在リ。各教會ニ於テ講演ヲ催シ、新聞紙上ニ韓國ニ於テ發生セル真相ヲ紹介シ、英國民ノ公憤ヲ起サシムルニ在リト。

次テ「ジョン・クリップフォード」神學博士(「バプチスト」派ノ大立者)ハ左ノ決議案ヲ提出セリ。

- 一、韓國事情ニ關シ社會的、政治的、經濟的、宗教的狀態ヲ詳細調査スルコト
- 二、大韓民族ハ自由ト正義ヲ保障スルコトニ盡カスルコト
- 三、大韓基督教徒ノ自由ヲ保護スルコト

四、大韓ニ於テ政治又ハ宗教ノ關係ニ依リ慘殺セラレタル者ノ寡婦孤兒ヲ救済スルコト

右決議案ハ「クリップフォード」博士ノ説明後、陸軍中佐「バリー」氏(下院議員)ノ動議ニ依リ滿場一致ヲ以テ可決シ、「ダグラス」牧師ヨリ左記諸氏ニ會務委任方ノ動議提出アリ決定セリ。

會長　　サー・ロハート・ニウメン(下院議員)

名譽書記　レウエリン・ウイリアムス(新聞記者)

會計　　ダブリユー・ヒスロブ

委員　　陸軍中佐ジョン・ウォード(下院議員)

同 陸軍中佐ゼー・エーチ・バリー (下院議員) エフ・エー・マツケンジー

同 ゼー・エフ・グリーン ハーナード・スネル ゼー・エー・ダグラス スコット・リッゼット

次ニ「マツケンジー」氏ハ黃氏ヲ紹介シ、黃氏ハ起テ簡單ニ演說セルカ、其ノ要領ニ曰ク

英國ハ自由ノ誕生地ナリ。英國人ガ自由ノ爲ニ事ヲ爲スハ其ノ祖先ノ遺傳ナリ。我等韓國人カ今日此ノ席ニ於テ英國ノ親友ト會合スルコトヲ得タルハ欣幸トシ感謝スル所ナリ。諸君ハ國家的自由ヲ享ケ我カ民族ハ國家的奴隸トナレリ。我等カ來リテ諸君ニ訴フル所アルハ、貴國カ民主主義ノ發生地ナルカ爲ナリ。英國カ今回ノ大戰亂ニ生命ト財産ノ大ナル犠牲ヲ拂ヒタルハ如何ナル理由ナリヤ。即チ世界ノ文明ヲ保全セムトスルニアラスヤ。一千八百八十三年貴國ト韓國ト條約ヲ締結シテヨリ以來兩國ノ間ハ國交上極メテ圓滿ナル關係ヲ持續セリ。英國ノ親友タル諸君、韓國ノ復興ニ力ヲ貸サレムコトヲ希望ス。余ハ確信ス。十五年前ノ韓國ハ永遠ニ保持シ能ハサリシナリ。過去ニ於テ我等ノ政治ハ我等ノ過ニ依リテ腐敗シタリ。然レトモ英國カ今日ノ自由ヲ享クルニハ永キ歲月ヲ費シタルニ非スヤ。我カ韓國ハ世界ノ情勢ニ暗キ國トシテ現代ノ文明ニ後レタリト雖、尙四千年ノ歴史ヲ有スル二千萬民ノ團結的國民ノ精神ハ、遂ニ自由ト正義ヲ以テ世界列國ノ一員トナルヘシ云々。

(以下ハ一九二一年一月二十九日及二月五日號掲載記事ニシテ前項記事ト多少重複スル所アレト對照參考ノ爲掲載ス)

其ノ後「ニユメン」氏ハ「マツケンジー」氏ヲシテ本會ノ目的ヲ説明セシメタリ。「マ」氏ハ其ノ演說中

一九〇四年（明治三十七年）ヨリ今日ニ至ル迄韓國カ日本ノ治下ニ於テ受ケタル處遇ノ大要ヲ述ヘ、左ノ如ク説明セリ。

我々カ今日午後、韓國ノ親友會ヲ大英國ニ組織セルハ、頃者ノ韓國狀況カ紳士ノ同情ト人道ノ正義及我等ノ愛國心ノ義務トヲ刺戟シテ之ヲ然ラシメタノテアル。

韓國親友會ヲ英國下院内ニ設立スルハ、緊要ナル事テアル。之ハ政治的方面ヨリ排日思想ヲ高唱セシムルノテハナイ。我等ハ我等ノ望ム所ヲ宣言シ、而シテ之カ成功ノ曉ニハ獨リ韓國ノ幸福ナルノミヲハナク、併セテ日本ノ幸福テアル。

韓國ノ内政ニ干涉シ又ハ特ニ同盟國ノ内政ニ干涉スルハ、特別ノ場合ニ限り行ハルヘキモノテアルカ、韓國ハ現ニ此ノ如キ特別ノ場合ニ在ルノテアル。

一九〇四年日本カ初メテ韓國ニ勢力ヲ伸ヘタ際、一般ノ白人等ハ韓國ニ對シテ同情ヲ表シタ。我等ノ信スル所ニ據レハ、韓國ハ當ニ其ノ政府ヲ改革シ、總テノ不公平ヲ掃蕩シ、人民ノ生活ヲシテ公平ナラシムヘキテアツタ。然ルニ我等ノ期待ハ裏切ラレタ。ソシテ我等ヲ驚愕セシメ、驚愕ノ結果我等ヲ怒ラシメ、我等ヲシテ惡感情ヲ懷カシメタ。开ハ我等カ其ノ事情ヲ知タカラテアル。即チ舊政治ヨリモ寧ロ惡キノミナラス專制政治ヲ繼續シテ益甚シイカラテアル。一九〇四年以來日本人ハ移民ヲ始メ娼妓、阿片商其ノ他不良ノ徒ヲ移植シ始メタルコトカ第一ノ施政テアツタ。次テ奸惡ナル計策ヲ用井テ韓國ヲ強奪シ、

韓人ヲ奴隸ニシタ。這ハ日本政府ノ爲ス所ニシテ、韓國ノ疆土ハ日本ノ植民地トナリ、韓人百萬ヲ滿洲ニ放逐シ、裁判ハ日本語ニ依テ行ハレ、天然的產物ハ日人ニ獨占セラレ、言論出版ノ自由ト個人ノ自由ハ剝奪セラレ、警察權ハ濫用セラレ、笞刑ヲ用ウル爲裁判前ニ死スル者多ク、教會ヲ撲滅セムトシテ無罪ノ者ニ惡刑ヲ施シタ。此ノ惡刑ハ韓人ヲシテ相結束シテ一團トナラシメタ。韓人等カ此ノ運動ヲ始メタノハ「ウイルソン」大統領カ國際聯盟會ハ世界ノ小弱國ヲ保護スト云フタカラテアル。日本ノ爲シタ所ノ無道ハ大英國ニ影響ヲ及ホシタ。英國ハ日本ノ同盟國ナルカ故ニ、如此政治上ノ關係ニ依リ捕ヘラレタル所ノ人民ニ惡刑ヲ施ス事ニ對シテハ攻撃スヘキテアル。一九一九年韓人カ獨立運動ヲ始メテカラ、全世界ハ日本ヲ攻撃シタ。日本ハ武斷政治ヲ行フ所ノ寺內總督（原文ノ儘）ヲ召還シ齋藤ヲシテ之ニ代ラシメタ。日本カ如此變革ヲ行フタコトハ感謝スヘク賀スヘキコトテアル。併シ齋藤總督モ惡刑虐待無道ヲ行フタ。我等ノ爲スヘキコトハ我等カ合同シテ日本ヲシテ韓國ニ自由ヲ與ヘシムルコトテアル云々。

次テ「ダブリユー・エル・ウイリアムス」氏ハ我カ會ニ於テ可決セラレタルモノニ對シテハ再言ノ必要ナキモ、我等ノ爲スヘキコトハ、韓國ノ狀況ヲ舉ケテ各教會、演說會、新聞、雜誌國會ニ建言スルニ在リト曰ヘリ。

次ニ「ジョン・クリッフォード」博士ノ建議アリ。要項左ノ如シ。

一、韓國ノ社會、政治、經濟、宗教ニ關シ宣傳スルコト

二、韓人ノ爲公平ト自由ヲ回復セシムルコト

三、韓國基督教信徒ヲ保護スルコト

四、政治及教會ノ壓迫ニ依リ寡婦トナレル者及孤兒ヲ保護スルコト

博士ハ之ニ對シ「右ノ事項ハ中佐「ジョン・ウオード」氏ノ提出セラレタルモノナルモ同氏不參ノ爲メ自己ヨリ提出スルコトナレリト」附言シ且曰ク

我等ハ韓人ノ苦楚ノ爲ニ事ヲ爲ササルヘカラス。我等ハ韓人ノ經過セル事件ニ對シ考慮セサルヘカラス。我等ハ韓國内ノ友ヲ救護セサルヘカラス。我等ノ憂慮スル所ハ韓國ノ政治ニ干涉スルニ在リ。然レトモ我カ國ノ歴史ニ鑑ミルニ、我カ民族ハ古來隣國ヲ援助シ來レリ。依テ我等ハ隣國ノ自由ノ爲、斷乎トシテ事ヲ爲ササルヘカラス。我等ハ從來束縛セラレタル者ヲ救援セムトセリ。英人ノ韓人ヲ援助スルニ對シ何等ノ異議ヲ挾ム者ナカルヘキヲ信ス。我等ハ確信ス「マツケンジー」氏ノ齎セル報道ヲ公表スルニ於テハ、之ヲ聞ク者驚異シ且怒リテ善後ノ事ヲ爲スヘキヲ。斯クテ韓人ヲシテ虐待ヲ免カレシムルコトヲ得ヘシ。韓人ハ義ノ爲ニ戰ヘリ。彼等ハ人タルノ待遇、國民タル待遇ヲ享クル能ハス。日本ハ韓人ノ膏血ヲ搾リ同時ニ韓人ヲ奴隸トセリ。我等ノ爲スヘキ所ハ何等カノ方法ニ依リ韓人ヲ奴隸ノ境遇ヨリ免レシムルニ在リ。自分ノ知レル所ニ據レハ、韓國内ニ於ケル壓迫甚シキヲ以テ、我等ハ此ノ壓迫ヲ取去ルカ爲ニ戰ハサルヘカラス。余ハ此ノ提出事項ニ同意シ併セテ諸君ノ同意ヲ請ヒ、且重ネテ新ニ組織

セラレタル此ノ團體ノ重大ナルモノナルコトヲ主張ス。

二 大韓獨立正式承認案提出（一九二二年二月五日號）

「エストニア」共和國勞働黨代表「マドナー」氏ハ韓國獨立ノ承認ヲ要求スル建議案ヲ正式ニ自國國會ニ提出セリ。

三 米國國會議員ノ同情（一九二二年一月一日號）

「ミソリー」州選出上院議員トシテ當選シタル「セルチン・ビー・スヒンス」氏ノ在華府朝鮮歐米委員部宛來信

本員ニ對スル當選祝賀ノ電報領收セリ。余ハ貴國ノ光復事業ニ對シ滿腔ノ同情ヲ有シ、出來得ル限り盡スヘキヲ以テ、將來通信アラムコトヲ希望ス。

「イリノイス」州選出下院議員トシテ當選シタル「ウイリアム・イー・メイソン」氏ノ同上部宛來信

本員ニ對スル貴祝賀ヲ謝ス。余ハ華盛頓ニ歸着後、貴國民族ノ光明正大ナル大意ニ對シ能ク限リノ援助ヲ爲スヘシ、特ニ以前未決トナレル韓國獨立承認案ニ對シ、再度國會ニ提出方周旋スヘシ、新ナル共和黨ノ施政ハ世界ノ小弱國ヲ見棄テサルヘキコトト信ス。

貴光復大業ニ對シ深キ同情ヲ表ス。

(一) 韓美報記事摘要

本紙ハ布哇在留排日鮮人中過激主義ヲ奉スル一派ノ每週數回發行スル諺文新聞ニシテ前掲國民報ニ對立セ
ルモノナリ

大韓民國臨時政府檄文 (一九二二年一月十九日號)

大韓民國臨時政府員一同ハ露領在住百萬同胞ニ告ク

諸君ハ大韓人ノ血ヲ受ケタル大韓國民ナルヲ以テ當ニ國ヲ愛スルノ堅キ心アルヘシ。已ニ大韓ヲ愛スルノ堅キ精神アリ。必スヤ大韓ノ讎敵ニ對シ之ヲ憎ムノ情アルヘシ。大韓ノ敵トハ誰ソヤ。彼レ日本ナリ。三百年前八年間ノ長歲月ニ互リ三百萬ノ同胞ヲ虐殺シ、貴キ我カ文明ト財産ヲ破壞シタルモノハ日本ナリ。十年前五千年來我等ノ血ヲ以テ守リ來リタル國家ヲ亡シ、二千萬ノ民族ヲ奴隸ト爲シ、多クノ愛國者及有識者ヲ虐殺シタル讎ハ日本ナリ。昨年三月ヨリ今日迄無道ナル銃劍ヲ以テ我等ノ父母、兄弟姊妹ヲ虐殺セ
ルモノハ日本ナリ。思フテ此處ニ至ラハ、大韓ノ山川草木禽獸ニ至ルマテ何レノ時カ之カ血ヲ潑リ、上ハ以テ祖先ノ冤ヲ洗キ、下ハ以テ子孫ノ辱ヲ免レシメムトシテ胸ヲ打チ齒ヲ嚙マサラムヤ。況ヤ人ニ於テオヤ。大韓人ニシテコノ怨極リナキ讎ニ對シ我カ皮膚ヲ削ラムトスルノ考ヘナキモノハ人ト謂フヘケムヤ。況ヤ本國ニ於テ我等ノ愛スル兄弟姊妹等カ大韓獨立ノ爲讎ノ手ニ血ヲ流シ、有ラユル苦楚ヲ舐ムルノ秋ニ

當リ。何人ヲ問ハス。誰ト親シ。敵ニ屬セムトスル者アラハ之ヲ人ト謂フベケムヤ。唯二千萬ノ忿怒ハ此ノ如キ凶惡ナル逆賊ノ爲ニ熱シ、義人ノ手ニセル劔ハ此ノ如キ義理ヲ辨セサル輩ノ胸ニ逼ラム。

特ニ露領五十萬ノ同胞ハ從前ヨリ愛國心強ク國ノ讎ヲ報スルノ決心堅キヲ以テ矜リトシテ今日迄十餘年間光榮アル歴史ヲ有シ、「我等ニ非サレハ誰カ祖國ヲ回復センヤ」トハ露領五十萬同胞ノ晝夜唱へ來レル所ナリ。然ルニ悲ムヘシ、思ハサリキ、此ノ如キ露領同胞中ヨリ讎ニ親シ。敵ノ勢力ヲ憑藉シテ我等ノ獨立運動ヲ妨害セムトハ、誰カ夢ニタモ之ヲ思ハンヤ。浦鹽新韓村ニ敵ノ勢力ニ據ル民團組織セラレ、某々處ニ於テハ敵ノ軍隊ノ保護ヲ請ヒ、某々ハ敵ニ服從ヲ盟ヘリトノコトヲ聞クニ至リテハ、胸塞リ血涙ヲ禁セムト欲スルモ得ス。殊ニ露領五十萬ノ同胞ハ五十年來露領ニ衣食シ其ノ保護ヲ受ケ且露國革命ニ於テ國人同様ニ待遇シ、我等ノ獨立運動ヲ自己ノ事ノ如クニシ、力ヲ盡シテ我等ヲ援助セムトスルニ拘ラス、此ノ如キ恩人ノ恩ヲ謝スルコトヲ知ラス、却テ恩人ノ敵タル日本ニ據ラムトスルカ如キハ人ト謂フヘケムヤ。露人ノ過去現在ニ於テ我等ヲ愛シ且同情セルハ、實ニ我等ノ國ヲ失ヒ、死ストモ故國ヲ回復セムト決心セル人民タルヲ知レルニ依ル。故ニ我等ヲ尊敬シ且愛セルナリ。然ルニ我等ニシテ彼ノ國ニ對スル義理及恩人ニ對スル義理ヲ辨セサル卑劣ノ民族タルヲ知ルニ於テハ、彼等ハ既ニ我等ヲ蹴リ排斥セルナラム。嗚呼同胞等何ノ顔色アリテ神ニ對シ露人ニ對セム。且露人ニ對スル諸君ノ可憎態度ヲ示スニ於テハ、露人ノ胸中忿怒ヲ生セシメ、全世界ノ人類ヲシテ我等ヲ唾棄セシムヘシ。我等大韓民族ハ此ノ如ク義理ヲ如ラサル者

ナラムヤ。我等ハ祖先ノ國ト恩人ニ對シテ流セル血ヲ傳フル者ナリ。故ニ同胞ハ胸中ニ於テ悔ヒサルヘカラズ。勿論此ノ如ク義理ヲ忘レ敵ニ附クノ行爲ハ露領同胞全部ノ意志ニ非スシテ、少數不良ノ輩ノ行爲ナリ。讎敵ノ勢力ニ恐レヲ懷キ、多數ノ順良ナル同胞ハ黙セルモ、五十萬ノ勇壯ナル同胞ハ伊藤ヲ殺シ、李完用ヲ刺シ、齋藤ノ車ニ爆彈ヲ投シタル勇士ノ同族タル光輝アル名譽ヲ汚シ、萬古ノ大事業タル獨立運動ヲ妨害スルマテ、此等ノ輩ヲ棄テ置クハ、即チ露領五十萬同胞全體ノ責任ナリト謂フヘシ。蓋シ數個ノ惡類、國ト恩人ニ對スル大ナル義理ヲ棄テ國ト恩人ノ讎ノ犬トナリ、全露領五十萬同胞之カ爲皆汚名ヲ被リ、從テ大韓二千萬ノ國民共ニ其ノ羞辱ヲ受ク。既ニ此ノ事ヲ知レル世界ノ人類ハ「嗚呼亡國ノ人民ナリ。韓國人ハ國ヲ知ラス、恩人ヲ知ラサル義理ナキ民ナリ」ト噫笑詛呪スルノ聲聞ユ。

我等ノ露領同胞ノ義理ニ信賴シ、其ノ勇氣ヲ信シ、不義ヲ見賣國賊ヲ見ルノ時我身ヲ亡ホスモ之ヲ懲罰スルニアラサレハ堪ヘサルノ氣慨ヲ信シ。五千年來ノ國ノ恩惠ト五十年來ノ露國ノ恩惠ヲ深ク記臆シ、熱血ヲ以テ之ヲ報セサレハ止マサルノ勇氣ヲ信セムトス。玆ニ我等カ愛シ且深ク信スル露領五十萬同胞ニ厚キ情誠ヲ傾ケテ其ノ書ヲ送ル。義氣アル大韓ノ同胞奮發シ義氣ヲ發スヘシ。

大韓民國二年十二月一日

國務總理 李東輝

外務總長 申翼熙
代理次長 李東寧
內務總長 李東寧

法務總長	申圭植	軍務總長	盧伯麟
財務總長	李始榮	學務總長	金圭植
勞働局總辨	安昌鎬	交通總長	南亨祐

第三 米國新聞

(一) 「華盛頓ヘラルド」記事摘要

(一九二〇年一月二十日號)

日本人ノ愛國者拷問ニ火ノ金網ニ包ミテ

「セヴァランス」病院長「エヰソン」博士ト同道最近「ホノルル」ニ到着シタル朝鮮人學生金載德、二十歲ハ、朝鮮獨立運動ニ參加シタル爲、五回逮捕セラレ、毎回拷問ヲ受ケタリトテ、其ノ身體ヲ露ハシテ、呵責ノ痕跡ヲ示シ、日本憲兵ノ蠻行ニ付怖ロシキ物語ヲ爲シ、且曰ク『日本[○]人[○]ハ[○]近代[○]科[○]學[○]ノ[○]新[○]發[○]明[○]ヲ[○]中[○]世[○]紀[○]的[○]拷[○]問[○]ニ[○]應[○]用[○]シ、毛布狀ニ編ミ上ケタル鐵條網ニ電流ヲ通シテ之ヲ熱シ拷問ノ具ニ供スルコトアリ。拷問ハ屢他ノ囚人、又ハ時トシテ婦人ノ面前ニ於テ行ハレ、且極メテ怖ロシク且卑猥ナル呵責ノ方法ヲ用井、

出來得ル限リ傍觀者ヲ恐嚇セムト努メ居レリ。

「自分モ前述ノ如キ毛布狀鐵條網ニテ腕ヲ燒カレ、又鏈ニテ卷キタル竹製ノ鞭ニテ打タレタルコトアリ。又第五回目ニ投獄セラレタル時ノ如キ、六箇月半ニ亙リ一回ノ審問モナシニ監禁セラレ居タリ。我等朝鮮人カ自由ヲ獲得スル迄ニハ、尙多クノ身命ヲ犠牲トスル場合屢之レ有ルヘケレトモ、我等ハ全世界ノ基督教徒カ日本ヲ強制シテ我等ニ自由ヲ與ヘシムル日ノ必ス來ルヘキヲ信ス」云々。

當時布哇旅行中ナリシ朝鮮假共和政府大統領李承晚博士ハ、金ヲ引見シ、暗涙ヲ浮ヘツツ彼ノ肩ヲ撫シテ「神ハ全能ナリ。日本ハ日本タルニ過キス」ト語りタリト云フ。

(二) 「紐育タイムス」記事摘要

(一九二〇年十二月六日號)

英領印度ノ獨立運動

獨逸政府カ亞細亞諸民族ノ獨立承認ニ同意シタル場合ニハ、印度、愛蘭、埃及、「メソポタミア」ノ革命黨ハ露國勞農政府ト同盟シテ、英帝國ノ破壊ヲ試ムヘシトノ說、昨日(一九二〇年十二月五日)當紐育市「マツカルビン・ホテル」ニ於テ開催セラレタル印度獨立同情者協會(The Friends of Freedom for India)ノ大會ニ於テ力說セラレタリ。當日ノ會合者ハ印度人。愛蘭獨立同情者協會其ノ他愛蘭關係諸協會ノ代表者

勞働組合員ノ急進主義者等ヲ主トシ、總員無慮三百名ニ達シ、席上『印度革命團ト愛蘭革命團トハ既ニ同盟ノ状態ニ入レリ』トノ一言ハ大喝采ヲ博シタリ。

印度獨立同情者協會ノ專務書記「タラクナス・ダス」氏ハ革命運動ノ爲印度ヨリ追放セラレ、自ラ米國市民ト稱スル志士ナルガ、氏ハ演說シテ曰ク『革命印度ハ勞農露國ト同盟セムコトヲ期ス。全世界ノ希望ハ繋リテ勞農露國ニ在リ。今日英國ノ帝國主義ニ對スル眞實ノ勁敵ハ勞農露國ナリ。我等被壓諸民族ハ、悉ク勞農露國ト提携シテ、英國ニ對スル神聖同盟ヲ形成スヘキナリ。獨逸ハ未タ曾テ印度ノ敵タリシコトナシ。彼若シ露國ノ如キ外交政策ヲ採用セハ、吾人亦獨逸ト提携スルヲ辭セス。吾人ハ日本ト言ハス、獨逸ト言ハス、苟モ英國ト反對ノ位置ニ立ツモノナラハ、世界何レノ邦國トモ、友好關係ヲ結フニ躊躇セス。排英政策ノ存スル所即チ吾人ノ在ル所ナレハナリ。吾人ハ既ニ多クノ國民ト同盟關係ニ入レリ。其ノ内革命ノ爲最モ勇敢ニ奮闘セルヲ愛蘭ト爲ス。愛蘭戰勝ノ日ハ英帝國崩壞ノ時ナリ。印度亦之ト共ニ其ノ獨立ヲ贏チ得ヘシ。印度ニ於ケル「シン・フェン」的運動ハ既ニ開始セラレタレハナリ。

『由來米國ハ東洋民族ニ損害ヲ加ヘス、常ニ自由ノ保持ヲ以テ其ノ傳統の方針ト爲セリ。故ニ吾人ハ米國カ、數億ノ民人ヲ隸屬トスル英國ト協同スルコトナキヲ信ス、英米ノ協同ハ早晚米國カ英國ノ爲ニ戰ハサルヲ得サルニ至ルヘキヲ意味スレハナリ云々』

印度獨立同情者協會ノ國民的組織者タル「サイレンドラ、ギョース」氏ハ次ニ『印度ノ獨立運動』ニ關シ

演説シテ、英國ハ強力ヲ以テ印度ヨリ排斥セラルヘシト豫言シ、且曰ク「我等印度人ハ必要ノ場合五千萬ノ常備軍ヲ編成スルコト容易ナリ。加フルニ豊富ナル天然資源ノ有ルアリテ、祖國獨立ノ用ニ供シ得ヘシ云々」

在米勞農露國大使館商務官「ホーヅィチ」博士ハ「レニン」ノ言ヲ引用シテ、今日二億五千萬ノ民人カ十二億五千萬ノ民人ヲ從屬ノ地位ニ置ケルハ、全世界ニ於ケル紛争ノ眞因ナリト斷シ、且曰ク「印度ノ獨立ハ白色人種ノ司配的勢力ヲ危ウスヘシトノ叫ニハ同感ノ意ヲ表スル能ハス云々」

次ニ印度ノ稅政ヲ指摘シ、米國公衆ニ報告ノ爲五名ノ印度實情調査委員ヲ選定シ、米國元老院外交委員會ニ陳情聽取ヲ請願シ、米國ニ於ケル政治的印度亡命者ノ檢舉ニ對シ抗議スル等ノ事項ヲ具シタル決議文可決セラレタリ云々。(編者附言尙紐育邦字新聞ノ報道ニ據レハ、同日夜ノ同會主催ノ演說會ニ於テハ米國元老院議員「ノリス」氏モ一場ノ演說ヲ試ミ朝鮮人其ノ他ノ革命團體モ之ニ參加シテ盛況ヲ極メ、大英國ト「ロイド・ヂョーヂ」ウイルソン」等ヲ罵倒シ、散會ノ際ニハ勞農露西亞ノ萬歲ヲ三唱シタリト云フ)

(本冊子第三十六頁第二項參照)

第四 米國刊行物

(一) 在米朝鮮同情者協會ノ目的位置及役員

米國ニ於ケル朝鮮同情者協會ノ發行ニ係ル英文印刷物ニ據リ同會ノ目的並同會本部ノ位置及役員ヲ示セ
ハ左ノ如シ。

目的

- (一) 朝鮮ノ實情ヲ宣傳シテ米國公衆ニ周知セシメ且朝鮮民族ノ福利ヲ圖ルコト
- (二) 朝鮮人基督教徒ノ信教自由ヲ保護スルコト
- (三) 従前朝鮮人ノ受ケタル虐待ノ再演ヲ防止スルコト
- (四) 朝鮮ニ於ケル寡婦、孤兒及無告ノ窮民ヲ救助スルコト
- (五) 米鮮兩人民間ノ友誼的及通商關係ヲ扶殖進善スルコト
- (六) 朝鮮獨立ノ爲ニ輿論ヲ喚起統一スルコト

位置 華府「ウッドワード・ビルディング」七三二號

中央執行委員

總裁 海軍提督「ジョン・シー・ワットソン」(米國海軍豫備役)

副總裁 元老院議員「チョーゼ・ダブリュー・ノリス」(「ネブラスカ」州選出)

同 「チョーヂ・ダブリュー・スターン」(米國農會委員)

專務書記 「エス・エー・ベック」廿年間ノ朝鮮同情者(譯者曰ク元在京城大米聖書公會主任ニシ

テ大正八年中引揚ケ歸國セシ「エス・エー・ベック」(韓名白瑞巖氏ト同一人ナラムカ)

會計 「アール・エーチ・ブラット」(「メツロポリタン」印刷會社員)

理事 李承晩博士(華府在住)

同 「フィリップ・ゼイソン」博士(費府在住)(米國歸化朝鮮人徐載弼)

同 「ダグラス・ブットナム・パーティー」夫人(華府在住)

(一) 在米印度獨立同情者協會ノ目的位置及役員

米國ニ於ケル印度獨立同情者協會ノ發行ニ係ル英文印刷物ニ據リ同會ノ目的竝同會本部ノ位置及役員ヲ示セハ左ノ如シ。

目的

(一) 印度人タル政治的亡命者ノ爲米國ニ於ケル避難ノ權利ヲ支持スルコト

(二) 印度獨立ノ主張ヲ發表スルコト

位置 紐育市東第十五街七番地

役員

總裁 「ロバート・モース・ロウエット」教授

副總裁 「ダッドレー・フィールド・マローン」

専務書記 「タラカナス・ダス」(印度人、前々項記事中心ニ見ユ)

總務書記 「アグネス・スメッドレー」

「エス・エヌ・ギヨース」(印度人、前々項記事中心ニ見ユ)

會 計 「ジャートルド・ビー・ケリー」

印度ニユース通信擔當者 「バサンダ・クーマー・ロイ」

法律顧問 「ギルバート・イー・ロー」

同 「フランク・ビー・ウォルシュ」

執行委員

前記役員ノ兼任スル外駐米勞農露國商務官 「アイザーク・エー・ホールヴヰツチ」 「アブラハ

ム・レフコヴヰツチ」 「ローヂヤー・エヌ・ボールドウヰン」 「ジョセフィン・ビー・ペンネット」

牧師 「ジョン・エーチ・ズーレー」 「ジョン・デー・ムーア」 等

國民議會

「トス・ガン・ベンネット」(「コンネチカット」州「ハートフォード」居住)、「フランツ・ボア

ス」教授(紐育居住)、「ダフルユー・イー・ビー・ヅボイス」博士(同上)、其ノ他紐育、「プ

ルックリン」、市俄古、桑港、華府、「シャートル」 「バルチモア」等ノ居住者二十五名

「タラクナス・ダス」(紐育居住)、「エス・エヌ・ギョース」(同上)、「ビー・ケー・ロイ」(同上)、其ノ外紐育、桑港、「ロスアンゼルス」、「ルイジニア」州「ニュー・オーレアンス」、加州「ホルトヴヰル」、同「カルサ」、同「フレスノ」、同「ウヰロウス」等居住ノ印度人十一名

第五 英米通信

本記事ハ本府ニ到達セル英米通信ノ一節ヲ摘録シタルモノナリ

(一) 在米鮮人活動ノ形式 (一九二〇年十二月十四日紐育發信)

(前略)在米鮮人ノ活動ハ萬事在米愛蘭人ノ物真似ヲ爲シ、漸ク其後ヲ追ヒツツアルコトハ、最早動カスヘカラサル事實ニ有之、情報局 (Information Bureau) ヤ朝鮮同情者協會 (League of the Friends of Korea) ノ設立ノ如キ全ク愛蘭人ト同様ノ機關ト組織トニ依ルモノニ外ナラス。又最近ニ至リテハ本月五日(大正九年十二月)又々印度人ノ獨立運動モ是等ト同様ノ形式ニテ紐育ニ於テ中々盛大ナル發會式ヲ舉ケ申候。斯様ノ次第ニテ所謂「壓迫民族」ハ漸次聯合的組織ヲ以テ世界的大運動ヲ試ミムトスル傾向相見エ申候。而シテ之カ牛耳ヲ執ルモノハ、一ニ在米愛蘭人ニシテ、其ノ援助者ハ米國人ニ外ナラサルハ、申迄モ無之

候云々。

(二) 在米鮮人ノ活動機關 (一九二〇年十月二十日華府發信)

米國東部ニ於ケル朝鮮人ノ活動機關トシテハ華府ニ於ケル朝鮮共和國最高委員部 (The High Commission of the Republic of Korea) 及費府ニ於ケル朝鮮情報局 (The Bureau of Information for the Republic of Korea) ノ二箇ニシテ、最高委員部ニハ大統領博士李承晩、議長金奎植、大統領秘書林 (B. C. Lynn) 委員部書記李 (W. Y. Lee) 法律顧問「フレッド・エー・ドルフ」 (Fred A. Dulf) (米人辯護士) アリ。其ノ他『海外駐在委員部』ヲ設ケ議長金奎植其ノ委員長ヲ兼ネツツアリ。二名ノ「タイピスト」ヲ雇傭シテ常ニ多忙ラシク執務シ居レリ。(情報彙纂第二頁第一項及第九頁末參照)

在費府情報局ニテハ主事博士「フィリップ・ゼイソン」 (Dr. Philip Jaisohn) (朝鮮人) トテ、元韓國皇帝顧問トカ、米國醫學博士トカ稱スル者、專ラ其ノ任ニ當リ、更ニ同局ヨリ朝鮮評論 (The Korea Review) ヲ毎月刊行シ、其ノ主筆ヲ兼ヌ。同志ハ專ラ米人其ノ他ノ外國人ニ對シ所謂日本ノ惡政ヲ知ラシメムトスル宣傳雜誌ニシテ、朝鮮同情者協會 (The League of the Friends of Korea) ナルモノヲ白人間ニ組織シ、其ノ會員ニハ無代配付シ居レリ。協會費ハ一箇年一弗ニシテ、同雜誌ヲ要求スル特別會員ハ會費一箇年二弗ト定メ居レリ。而シテ茲ニ注意スヘキハ該協會ノ各地支部會長ニ相當知名ノ士ヲ見受クルコトナリ。目下

米國ヲ通シテ十七箇ノ支部アリ。其ノ所在地及會長左ノ如シ。

アライヤンス(オハヨ州)

ティー・ゼー・ブライソン博士

アン・アーハー(ミシガン州)

ダブリュー・シー・ルーファス博士

ボストン(マサチューセッツ州)

エル・エーチ・マーリン博士

市俄古(イリノイス州)

元老院議員ゼー・ゼー・バーブーア

コラムバス(オハヨ州)

ウイリヤム・ホーストン博士

フィンドレー(オハヨ州)

ダブリュー・ダブリュー・ガイヤー博士

フォストリヤ(オハヨ州)

エフ・エー・ウイルバー博士

カンサス市(ミズリー州)

グラント・エー・ロビンス博士

リマ(オハヨ州)

牧師ティー・アール・ハミルトン

マンسفールド(オハヨ州)

アール・イー・テューロス博士

ニューバーグ(オレゴン州)

シー・イー・ギブソン博士

紐育市

シー・ゼー・スミス博士

費 府

フロイド・ダブリュー・トムキンス博士

リーディング(ペンシルヴェーニヤ州)

フランク・エス・リヴィンググッド

桑 港

エル・エー・マツカファイ博士

ティツフィン (オハヨ州)

エー・シー・シューマン博士

華盛頓市

海軍提督ゼー・シー・ワットソン

右ノ内華府支部會長ハ嘗テ一八七一年ヨリ一八七三年迄横濱ニ常泊補供艦長トシテ在任セシコトアリシ者ナリ。

朝鮮同情者協會ノ會員數ハ、彼等ノ報スル所ニ依レハ、一萬人以上ニテ、會員所在地ハ全米各州ヲ始メ支那、日本、朝鮮、英、佛、露ナリト稱シ居レルモ、他ノ方面ヨリ得タル情報ニ依レハ、三千位ニテ内一千ニハ朝鮮評論誌ヲ無代贈呈シツツアルモノ如シ。(本冊子第十七頁第五行及第三十四頁末行參照)同志ハ在桑港韓國國民協會發行ノ「大韓民報」ノ韓文新聞ニ對スル在米鮮人ノ唯一ノ英字月刊雜誌ナリ。

叙上華費兩府ノ二機關ニヨリテ大抵毎月何等カノ小冊子ヲ刊行シテ種種宣傳ニ努ムルモ、昨今ノ状態ヲ見ルニ 彼等ノ主張ハ從來單ニ宗教家方面ニ道德的援助ノミヲ要求スルニ在リシニ、最近ニ在リテハ、盛ニ朝鮮ニ於テ鑛山其ノ他未發展ノ産業有望ナル旨ヲ吹聽シテ、米國事業家ニ對シ、東洋殊ニ朝鮮ノ企業熱ヲ煽フルカ如キ態度ニ出テ、以テ事業家方面ノ物質的援助ヲ哀願シツツアリ。若シ我ニ彼等ノ宣傳ニ對應スルノ要アリトセハ、此ノ點ハ最モ注意ヲ拂フヘキモノナルヘシ云々。

(三) 朝鮮問題ト英國 (一九二二年一月二十日倫敦發信)

英國ニ於ケル極東研究熱ハ、大戰終了ト共ニ俄ニ起リ來リ、支那方面ノ研究ト同時ニ、朝鮮問題ノ研究ニ對シ漸ク興味ヲ覺エ、政治家ト云ハス、實業家ト云ハス、一般國民ノ擧ツテ注目ヲ拂フノ傾向アリ。此ノ時ニ際シ、昨年仲夏例ノ「エフ・エー・マツケンジー」(本冊子第八頁第四行參照)米國、加那陀ニ於ケル排日宣傳ヲ打切り、突如トシテ英國ニ現ハレ、爾來所謂朝鮮問題ニ關スル言論俄ニ諸種ノ紙上ニ現ハレテ、全ク如上ノ傾向ト投合シ、「マツケンジー」自身スラ、一時ハ當初ノ豫想以上ノ反響ヲ齎ラシタルニ驚キタルモノノ如クニ察セラレタリ。(情報彙纂第二、第七頁第九項參照)

之カ爲彼ノ英國朝鮮同情者協會(The League of the English Friends of Korea)ノ如キモ、樂樂ト設立セラレシ由ナリ、該協會會員連ノ系統ハ、多クハ自由黨、勞働黨ニ屬スル下院議員ニシテ、平素彼等ノ抱懐セル自由急進ノ主義主張ニ巧ニ迎合シテ其ノ會員ニ誘導シタルモノノ如クニ考ヘラル。

兎モ角同協會カ既ニ英國議院内ニ於テ發會式ヲ舉ケシ一事(本冊子第七頁第三項參照)ニ依リテ見ルモ、唯單ナル好事家ノ閑事ト輕々ニ看過スヘカラサルモノアリ。

「マツケンジー」カ昨秋全英各地ノ新聞雜誌ニ對シ、其ノ著書「朝鮮ノ獨立運動」(Korea's Fight for Freedom)ノ無代頒布ヲ大行的ニ行ヒ、所謂同業ノ誼ヲ以テ同情的新刊紹介ヲ掲載セシメ、巧ニ排日的宣傳ヲ行ヒシカ如キハ、頗ル效果アリシモノノ如ク、之ニ對シ彼ノ誤謬ヲ指摘セシ者ハ、僅ニ「ブランド」

(Bland)氏(編者附言氏ハ本年二月八日支那北京方面ヨリ京城ニ入り十日内地ニ向ヒタル倫敦「タイムズ」

通信員「ゼー・オー・ヒー・ブランド」ノコトナラムカ一人ノミニテ、他ハ全英各地中央地方ヲ擧ケテ、悉ク彼ノ著述ヲ裏書セシ模様ナリ。

斯ノ如ク英國內一般ノ輿論ト傾向トカ、頗ル興味ヲ以テ極東ノ記事ヲ歡迎スルノ情勢アルヲ以テ、自然英國ノ新進記者界ニハ、東洋視察ノ希望ヲ抱ク者多ク。隨テ自ラ「東洋事情精通家」タル専門的地位ヲ獲得セムコトニ腐心スル者モ多有之ヤニ聞キ及ヘリ。現ニ昨年末カ本年一月初カニ日本到着ノ筈ナル「マシエスター・ガーデヤン」社ノ記者「ハミルトン」(Hamilton)氏等ノ今回ノ東洋視察ノ如キハ、全ク此ノ意味ニ外ナラサル由ナリ。同新聞ハ最モ急進的ナル「リベラリスト」ノ主張ヲ支持シ、其ノ爲恰モ「アスキス」卿ノ機關紙視セラレ居リ、現内閣ニ反對シテ、愛蘭獨立ニハ寧ロ好意ヲ示シ居レリ。同紙ハ昨年秋頃數次朝鮮問題ヲ論評シ、屢排日的記事ヲ掲ケシ由ニテ、同紙ノ系統ヨリ見レハ、自然朝鮮人ニ同情スルモ無理カラヌ様思ハル。

前記協會ノ外當英國ニ於テ團體的ニ會合シテ朝鮮問題ヲ論議セムト試ミシモノハ(一)原始種族保護會(二)宗教團體ノ會合位ノモノニシテ、一般ニ米國ニ比シテハ全ク同日ノ談ニアラス。未タ何等憂慮スル程ノ程度ニアラスト推斷セラル。

宗教團體ニ對スル活動ハ「朝鮮ノ復興」ノ著書「ジョーゼフ・ダブリュー・グレーヴス」(Joseph W.

Graves)ナル者(情報彙纂第三第十六頁參照)倫敦ニ居ヲ構エ「國際社會奉仕會」(International Social

Service Society)ナル名稱ノ下ニ宗教團體ト聯絡ヲ取り、專ラ排日宣傳ニ努メ。朝鮮内ニ於ケル基督教壓迫ヲ誇張シ居ルモノノ如シ。而シテ宗教團體側ニ於テハ、傳道費寄附募集ノ口實トシテ、日本ノ虐政ヲ匡正スル爲ニ基督教化スルノ必要アリトテ、東洋傳道ノ急務ヲ説キツツアリトノコトナルモ、果シテ幾許ノ信憑ヲ措クヘキカハ尙疑問ナリトス。

從來英國議會ニ於テモ、議員中ヨリ朝鮮問題ニ關スル質問ヲ提起セムトスルモノ再次ニ及ヘル由ナルモ其ノ都度英國政府ハ日英國交上ニ至大ノ影響ヲ及ホスヘシトノ意味ヲ以テ、質問者ト事前ニ協議シテ公然ノ問題ト爲ササル由ナリ、尙聞込ミタル所ニ依ルモ、英國政府カ先ツ朝鮮總督府ニ對シ、同情的態度ヲ保持シ居レルヲ察知シ得ヘシ。

斯ノ如ク英國ノ輿論カ、大體ニ於テ、未タ米國ノソレノ如ク、惡化シ居ラサルコトハ、自明ノ事實ナリ。一方日本側ノ宣傳上ヨリ之ヲ見レハ、目下ハ寧ロ最モ適當ノ時機ニテ、極力宣傳ニ努力スヘキ好機ナラム。事前ニ於テ真相ヲ宣傳スルコトハ、事後ニ辯明スルニ比シ、勞少クシテ效果多ケレハナリ

【畢】

大正十年三月二十五日 印刷
大正十年三月二十八日 發行

朝鮮總督府

京城旭町貳丁目十番地

印刷所 京城印刷所